

施策評価シート

令和 5 年度

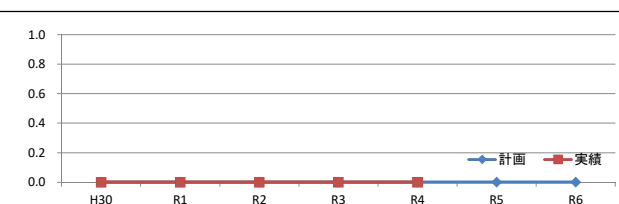
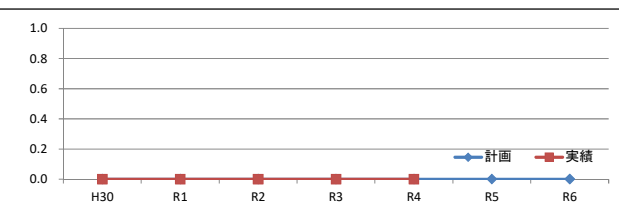
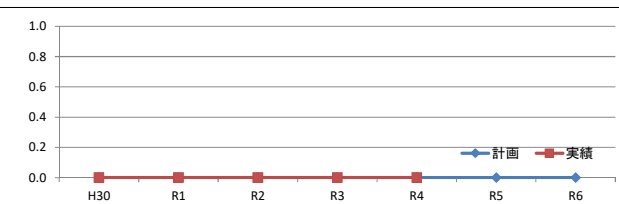
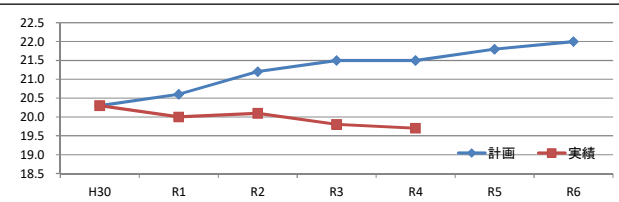
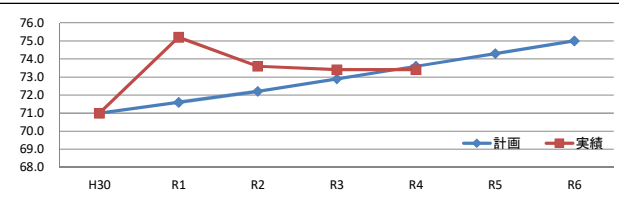
総合 体系 計画	分野	3	第3章	住み慣れた地域で支え合い、自分らしく自立した生活ができるまち	施策統括課	高齢福祉課
	施策No.	2	施策名	住み慣れた地域で安心して暮らす高齢者福祉の充実	課長名 (施策統括責任者)	詫間 さとみ
	関係課	保険年金課 高齢福祉課				

1. 施策の目標

めざす姿 (成果目標)	高齢者は、介護状態にならないように予防に努めながら、生きがいを持つことや社会参加をすることなどによって、住み慣れた地域で自分らしくいきいきと暮らしている。
取組方針	高齢者が生きがいを持って、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるようにするため、高齢者の生活支援を推進するとともに、医療と介護の連携を進め、支援の担い手育成など地域で支える体制を整えます。また、介護状態にならずにいきいきと過ごせるように、健康づくりや介護予防を推進し、生きがいづくりの機会や社会参加の場づくりに取り組みます。

2. 施策の意図と成果指標

対象（誰、何を対象としているのか）*人や自然資源等	65歳以上の高齢者						
意図（この施策によって対象をどう変えるのか）	高齢者が健康で自立した生活をできるだけ長く続けること、そして、たとえ介護を必要とする状態になっても、その人らしい生活を自分の意思で可能とすることで、高齢者が尊厳ある暮らしを維持できるようにする。						
成果指標 A							単位
自分らしくいきいき生活している高齢者の割合							%
H30 基準	R1 計画実績	R2 計画実績	R3 計画実績	R4 計画実績	R5 計画実績	R6 目標	
71.0	71.6 75.2	72.2 73.6	72.9 73.4	73.6 73.4	74.3 0.0	75.0	
成果指標 B							単位
要介護（要支援を含む）認定を受けている人の割合							%
H30 基準	R1 計画実績	R2 計画実績	R3 計画実績	R4 計画実績	R5 計画実績	R6 目標	
20.3	20.6 20.0	21.2 20.1	21.5 19.8	21.5 19.7	21.8 0.0	22.0	
成果指標 C							単位
-							-
H30 基準	R1 計画実績	R2 計画実績	R3 計画実績	R4 計画実績	R5 計画実績	R6 目標	
0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0	
成果指標 D							単位
-							-
H30 基準	R1 計画実績	R2 計画実績	R3 計画実績	R4 計画実績	R5 計画実績	R6 目標	
0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0	
成果指標 E							単位
-							-
H30 基準	R1 計画実績	R2 計画実績	R3 計画実績	R4 計画実績	R5 計画実績	R6 目標	
0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0	



施策評価シート

3. 市民意向調査結果

施策の重要度	前回	今回	
重要である	52.2%	50.6%	↓
ある程度重要である	38.5%	38.5%	→
あまり重要ではない	2.8%	3.3%	↑
重要ではない	0.6%	1.0%	↑
順位	8/36位	9/36位	↓

施策の満足度	前回	今回	
満足している	5.4%	5.0%	↓
どちらかといえば満足	46.8%	48.4%	↑
どちらかといえば不満	28.1%	27.0%	↓
不満である	4.7%	5.0%	↑
順位	12/36位	10/36位	↑

4. 社会潮流等の変化について（第2次総合計画策定時からの市民ニーズの環境の変化、法整備状況等）

・コロナウイルス感染症の影響により外出を控える高齢者も多く、日常生活に制限が生じていることが考えられる。コロナウイルス感染症も第5類へ変更されたことから、今後は外出の機会も増えると予想できるため、自分らしくいきいきと生活する高齢者が増加すると考える。

5. 施策を推進していく上での新たな課題、新たな視点

- ・高齢者人口の増加に伴い、一人暮らし高齢者も増加している。日常生活において抱える問題など地域の問題として支援ニーズの把握が課題となっている。
- ・コロナ禍を経て、市が行う介護予防教室への参加者数が減少している。
- ・国の「認知症施策推進大綱」により令和7年度までに、認知症の人やその家族の支援ニーズと認知症サポーターを中心とした支援を繋ぐ仕組み（チームオレンジ）を地域ごとに整備を目指すものとされた。

6. 施策の課題解決に向けた今後の取組の方向性・内容等

- ・3年に2回実施する高齢者実態調査において、お困りごとなどの聞き取りにより、必要な支援ニーズを把握し、支援を行う。
- ・高齢者の生活支援支援ニーズに合った具体的な支援につなげる仕組みの構築を目指す。
- ・高齢者一人ひとりが心身ともに健康を保つことができるよう、フレイル予防を市民に推進する。
- ・「チームオレンジ」の整備については、認知症の人やその家族の支援ニーズに合った具体的な支援につなげる仕組みの構築を目指す。